

さぬき市民病院だより

〒769-2393 香川県さぬき市寒川町石田東甲387番地1

TEL 0879 (43) 2521 FAX 0879 (43) 6469

いやし
癒

さぬき市民病院季刊誌「癒」

第15号

発行者/さぬき市民病院

編集/広報委員会

発行：2022年1月 vol.15

2022年 新年のごあいさつ



さぬき市民病院事業管理者

さぬき市民病院 院長

徳田 道昭



新年明けましておめでとうございます。

2021年も昨年と同様に、新型コロナで明け、新型コロナに暮れた1年でした。

それでもコロナ禍の中で開催された東京オリンピックでは、柔道や卓球、野球、ソフトボール、体操など次々に金メダルを獲得する日本選手の姿には一喜一憂し、彼らが発する“感謝”の言葉には医療職皆が励まされたように思います。

一方、コロナ感染については、ワクチン接種の遅延をあざ笑うかのように、8月には未接種の青壮年を中心に第5波が襲ってきて、当院でも25床の感染病床がほぼ満床になりました。

それでも何とか乗り切ることができたのは、青壮年であるが故に入院期間が7～10日程度と短く、かつ既存の薬剤に加えて、カクテル抗体が使えるようになって軽症者が増えたことに依ると考えています。

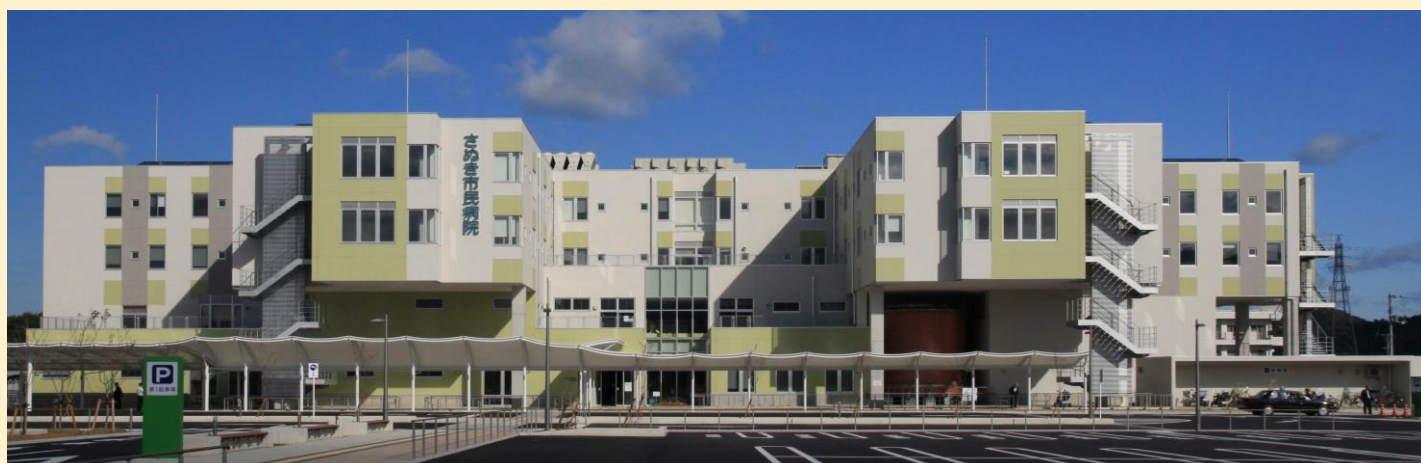
しかし、12月には新たにオミクロン株の感染拡大が報告され、しかも従来株に比べて感染率が高いという傾向を見ると、3回目のワクチン接種や、新しい治療薬の解禁、国産ワクチンの開発などで、何とか小さな波に収まることを祈るような気持ちです。せっかく回復基調に戻った経済活動以外にも、高齢者の屋外活動が制限された結果、フレイルや認知症が増悪することを懸念します。

さて、新型コロナの話に隠れがちですが、中央での議論を見ていると、「地域医療構想に基づく病床数削減」や、それに関連した「病院再編と統合」、「医師の働き方改革」の議論が着々と進行しています。

しかし、今回のパンデミックでも明らかになったように、感染や災害などの有事には予備ベッドが必要であり、“公立病院”が果たすべきこの使命を“経営効率”という理由だけで削減して良いものか、大いなる疑問を感じます。

また、当院は“周産期医療の拠点”でもあり、10月からは分べん（経産婦のみ）が再開されました。そこに「働き方改革」の議論を持ち出されると、医師数が少ない郡部における救急医療や周産期医療には大きな制限が掛かり、“医師の倫理観”によって支えられていた政策的医療が音を立てて崩壊することを懸念します。そのように考えると、「地域医療」のあるべき姿については、国ではなく地方行政が独自のビジョンを策定し、地域にあった事情で運営することが最善と考えますが、今後の議論の展開を慎重に見守りたいと思います。

末筆ながら、本年が皆様にとって穏やかで良い年になることを祈念します。



■院内災害訓練 実施

11月20日（土）、新型コロナウイルスが鳴りを潜めている間を利用して、2年越しの「災害訓練」を実施しました。当日は、当院の「災害対策委員会」構成員である幹部職員を含む100余名の職員が、「午前9時10分に震度6強の地震が発生し多数の傷病者が出ている。」ことを前提とした訓練に真剣に真摯に取り組みました。

当院は、東讃地域における「地域災害医療センター＝災害発生時に災害医療を行う病院一般的な病院機能に加え、災害により患者数が医療の供給を上回る場合に対応できる能力を有する病院」としてその重責を担っており、施設・設備・物資とともに人的要員も欠かさないものです。

今回の訓練では、災害対策本部の指揮の下で、当院が誇る「DMAT（専門的な訓練を受けた医師・看護師等からなる災害発生直後から活動できる機動性を備えた医療チーム）」の指導を交えながら各セクションごとの訓練が約3時間行われました。

今後とも、南海トラフをはじめとする地震、風水害、大規模交通事故等で発生する多数の傷病者に対応できるよう訓練を実施し研鑽を積む予定としています。



開始前

笹岡災害対策委員会委員長からのメッセージ

さぬき市民病院は地域災害拠点病院に指定されています。

地震や豪雨などの自然災害はもとより多数傷病者が発生するような大規模交通事故などの人為災害にも対応できる体制を整備しておく必要があります。

災害対策は、その重要性は高いものの当院の日常診療（外来診療、入院診療、救急対応）という役割に比べると災害の発生頻度を考慮すると緊急性は低くなります。

アイゼンハワーマトリクスに当てはめると、すぐに対応することではないが、その準備はしっかりと行っていくというカテゴリーになります。いわゆる保険的な考え方に相当するかもしれません。

災害対策には限界はあっても、災害対応に限界はないといわれています。

いざ有事の際には地域の方々を支援できるような行動がとれるよう、定期的な災害訓練を行い災害拠点病院で働いている職員としての責任感と矜持を全職員が自覚できるように努めていきたいと思えます。



職員受付



災害対策本部



外来指揮所



トリアージ



黄エリア（中等症群）



赤エリア（重症群）

■PCR検査装置（全自動遺伝子解析装置）増設

11月26日（金）これまで3台で運用中のPCR検査装置を2台増設し計5台としました。

これにより、約60分の検査を同時に5名、1日30人以上の検査が可能となりました。オミクロン株が急拡大する中で、検査体制のさらなる充実を図ります。

全自動遺伝子解析装置（PCR検査装置） ⇒



■第59回香川県国保地域医療学会

8月29日（日）、コロナ禍の厳戒態勢の中、「わたしらしく生きる」をメインテーマに掲げた『第59回香川県国保地域医療学会』がハイブリット方式（メイン会場とサテライト会場を結んで同時進行で行う方式で病院内で参加）で開催されました。



国民健康保険診療施設の一員である当院にとってこの学会は大変重要であり、当院からは、副学会長の徳田院長が、メイン会場に出向き「地域で自分らしくいきいきと生きていくために」をテーマとしたシンポジウム司会者としての重責を果たしました。続いて当院に長らく貢献していただいた4名の方の永年勤続表彰が行われました。

なお、当学会に提出された15題（うち当院から5題）の研究発表中、

最優秀賞!! ⇒ 褥婦への継続的な関りから地域医療を担う病院助産師の活動に向けて

優秀賞! ⇒ 調理従事者における「目に見える衛生管理」

を獲得しました。受賞者の両名、そして出席者の皆さま、大変お疲れさまでした。



■第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会総会

11月12日（金）から、高松市で2日間にわたって『第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会総会』が開催されました。

この学会は、会員が医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士等の多くの職種から構成されており、呼吸管理についての基礎的、臨床的な研究成果の情報交換の場となる由緒正しい学会です。

こうした権威ある学会において、当院リハビリテーション技術科所属の村川主査が栄えある**学会奨励賞**を受賞しました。栄誉を祝福し本人の談話を掲載します。

2021年11月12日～13日に高松市で開催されました第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会にて、今までに発表した演題や論文の業績が評価され、「第10回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学会奨励賞」という大変栄誉ある賞をいただき、「急性期市中病院における高齢肺炎患者のADL能力に影響する因子の検討-早期からの栄養療法と呼吸リハビリテーションの重要性-」という題名で受賞講演を行ってきました。

本学会は、呼吸器診療や呼吸ケア・リハビリテーションに関わる全ての職種が全国から集い、最新の知見などを含めた講演や一般演題など多くの演題を聴講することができ、非常に勉強となる学会です。

私自身も第24回の学術集会から定期的に演題発表をさせていただき、様々な職種の方々とディスカッションすることで多くのことを学ばせていただきました。

今回、このような賞を受賞できたのも日頃から臨床研究に対してご理解・ご協力いただいているスタッフ皆様あってのことだと思っております。この場をお借りいたしまして感謝申し上げます。

今後も理学療法士として患者様により良い呼吸ケア・リハビリテーションが提供できるように技術研鑽だけでなく臨床研究にも積極的に取り組んでいきたいと考えておりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



写真中央が村川主査

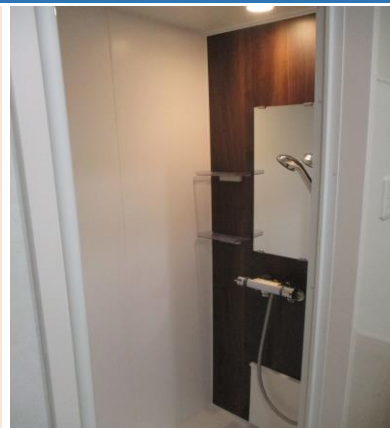
■ 3階北病棟シャワールーム完成

このたび、3階北病棟にシャワールームを設置しました。この工事は、病棟内の浴室に加えてシャワールームを増設することで、患者さんの移動距離を短くすることや、重複して利用できる利便性の向上などを目的としたものです。

限られたスペースを活用したため少々手狭ではありますが、入院患者さんに少しでも快適な療養生活を送っていただければ幸いです。

赤松看護部長から

シャワー浴は、心身の保清や様々な身体的・心理的メリットを得られます。一方で、入浴前・中・後の観察と注意が非常に重要です。安全性の高いシャワー浴を提供できるようサポートしたいと考えています。



■ 令和3年度新人研修

12月18日（土）、感染対策を徹底したうえで、毎年恒例の新人研修が開催しました。

今年度は12名の対象者に集まっておいただき、徳田院長の基調講演、笹岡副院長の災害講演に続き、レクリエーションを行いました。

通常、接することが少ない他職種の方々や、普段は厳しい（？）上司の皆さんとの交流が図られていました。



病院長の基調講演



副院長の災害講演



レクリエーション

★院内保育所クリスマス会

12月15日（水）院内保育所「ひまわり」で『クリスマス会』が開催されました。当日は、8人の園児の皆さんにプレゼントが手渡されました。

サンタさんいわく

「世の中のみんなを元気づけるひまわりのようにすくすく育てね」



新採紹介

令和3年10月以降、新たに採用された職員を紹介します。



天雲 千晶

【主任部長】産婦人科

東讃で気軽に受診できる存在になれるよう頑張ります。

日下 智陽

【医員】小児科

短い期間ですがよろしくお願いします。

編集後記

いつも当院を応援してくださる皆様、明けましておめでとうございます。昨年は、コロナ禍とはいえ季刊誌「癒」を思うように発刊できず大変申し訳ありませんでした。本年は、できる限り情報発信に努めたいと考えています。2月からの新型コロナワクチン第3回目接種を控えて、職員一同緊張感をもってコロナに立ち向かっています。皆様本年もよろしくご愛顧いただきますようお願いいたします。